

- 問1 7世紀前半の東アジアでは、中国を統一した唐が、朝鮮半島の北部に位置する国を攻撃するなど、軍事的な緊張が高まっていました。このような国際情勢の変化は、日本において強力な中央集権国家を目指す大化の改新が起こる大きな要因となりました。このとき、唐の攻撃を受けた朝鮮半島北部の国名を答えなさい。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
1. 百済 2. 高句麗 3. 渤海 4. 新羅
- 問2 645年に起こった政治改革において、中臣鎌足（藤原鎌足）らとともに、権勢を振るっていた蘇我氏を倒し、後に天智天皇として即位した人物は誰ですか。 (2023年 沖縄県公立入試 類似)
1. 足利尊氏 2. 中大兄皇子 3. 聖徳太子 4. 大海人皇子
- 問3 飛鳥時代において、朝鮮半島から伝来した新しい宗教である仏教を積極的に受け入れ、聖徳太子（厩戸王）と協力して政治改革を推進した有力豪族を答えなさい。 (2022年 岩手県公立入試 類似)
1. 藤原氏 2. 北条氏 3. 平氏 4. 蘇我氏
- 問4 飛鳥時代、天智天皇の死後にその後継をめぐって起きた大規模な内乱である「壬申の乱」について、その結果と歴史的影響を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2018年 静岡県公立入試 類似)
1. 平氏との戦いに勝利した源頼朝が征夷大將軍に任命され、武家政権による統治が本格化した。
2. 聖徳太子が推古天皇の摂政となり、冠位十二階や十七条の憲法を定めて天皇の権威を高めた。
3. 中大兄皇子が蘇我氏を打倒し、公地公民を基本とする政治改革である大化の改新が始まるきっかけとなった。
4. 勝利した大海人皇子が天武天皇として即位し、天皇中心の強力な中央集権国家体制を築く基盤となった。
- 問5 6世紀半ば、朝鮮半島南西部に位置していた国から、日本へ釈迦如来像や経典が贈られたことで、仏教が公式に伝えられました。このとき、日本へ仏教を伝えた国の名称として正しいものを選びなさい。 (2023年 三重県公立入試 類似)
1. 渤海 2. 百済 3. 高句麗 4. 新羅
- 問6 603年から607年ごろの飛鳥時代において、国内の政治体制を整えるために行われた政策と、同時期の対外政策の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2024年 福島県公立入試 類似)
1. 家柄にとらわれず才能のある人物を役人に登用する冠位十二階を定め、小野妹子を遣隋使として派遣した。
2. 土地と人民を国家が管理する公地公民を確立し、隋の皇帝から日本の王としての地位を認める金印を授かった。
3. 仏教を弾圧しようとする勢力を抑えるために大仏を造立し、朝鮮半島へ軍隊を派遣して白村江の戦いに臨んだ。
4. 役人の心得を示す十七条の憲法を制定し、中臣鎌足とともに唐の文化を取り入れるための遣唐使を派遣した。
- 問7 白村江の戦いでの敗北を受け、九州北部には水城や大野城といった防衛施設が次々と建設されました。これらの施設や海岸線の警備にあたるため、主に東国などの遠方から徴用され、九州へ派遣された兵士を何と呼びますか。 (2022年 神奈川県公立入試 類似)
1. 健児 2. 御家人 3. 防人 4. 武士
- 問8 かつての都であった藤原京の跡地からは、多くの木簡が発見されています。その中には、現在の長野県にあたる地域から特産物が都まで運ばれたことを記したものがあり、地方まで中央の支配が及んでいたことが分かります。このような統治体制を確立させる契機となった出来事として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 愛知県公立入試 類似)
1. 東大寺に大仏が造立されたことで、仏教の力によって地方の反乱を鎮める仕組みができた。
2. 墾田永年私財法が出されたことで、地方の有力者が独自に土地を開発し、都に献上する流れが加速した。
3. 冠位十二階の制度が整えられ、家柄にこだわらず才能のある人物を地方の役人に登用した。
4. 大宝律令が制定され、全国を国・郡・里に分けて役人を派遣する律令国家の体制が整った。
- 問9 663年の白村江の戦いにおいて、唐・新羅の連合軍に大敗した倭（日本）の政権が、大陸からの侵攻に備えて九州や瀬戸内沿岸で実施した防衛策として最も適切なものを選びなさい。 (2024年 大分県公立入試 類似)
1. 博多湾の沿岸に石築地（元寇防塁）を築き、武士を動員した
2. 東北地方に多賀城を築き、蝦夷の反乱に備えて鎮守府を置いた
3. 大宰府の北側に水城を築き、各地の要所に朝鮮式山城を造った
4. 大陸との交流を断絶するため、遣唐使の派遣を完全に停止した
- 問10 7世紀後半、日本は唐や新羅による侵攻の脅威に備え、九州の大宰府周辺に「水城（みずき）」と呼ばれる大規模な土塁や、山城（朝鮮式山城）を築きました。これらの防御施設の築城にあたって、高度な土木技術を伝え、建設を指導した渡来人たちは、どこの国から来た人々が中心であったとされていますか。 (2021年 滋賀県公立入試 類似)
1. 百済 2. 新羅 3. 高麗 4. 渤海
- 問11 7世紀初め、聖徳太子が中国の隋に小野妹子らを派遣した外交政策の目的と、その内容を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2026年 栃木県公立入試 類似)
1. 隋の皇帝から日本国王としての称号を得ることで、朝鮮半島での軍事的な優位性を確立するため。
2. 蘇我氏が大陸との貿易を独占し、天皇を凌ぐ経済力を背景に権力を掌握するための私的な使節とするため
3. 中国と対等な立場での外交を目指し、大陸の進んだ制度や文化を取り入れて天皇中心の国づくりに役立てるため。
4. 日本が中国の属国であることを認め、毎年の朝貢を約束することで日本国内の反乱を抑えるため。
- 問12 8世紀の初め、現在の群馬県にあたる地域に建てられた「多胡碑」には、朝廷の命令によって新たな郡が設置されたことが記されています。このように、唐の制度にならって定められた法律に基づき、地方の行政区画を整備することで形成された、天皇を中心とする中央集権的な国家の仕組みを何といいますか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
1. 律令国家 2. 封建国家 3. 守護・地頭制 4. 幕藩体制
- 問13 当時の有力な豪族の家系図において、蘇我稲目の子であり、推古天皇や聖徳太子とも深い血縁関係を持つ人物が行った政治的行動として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 熊本県公立入試 類似)
1. 武士団を組織して平氏を打倒し、征夷大將軍となって幕府を開いた。
2. 遣隋使の派遣を停止し、日本独自の国風文化を育てることに専念した。
3. 仏教の採用に反対する勢力を退け、大陸の新しい文化や制度を取り入れて国家の近代化を図った。
4. 検地や刀狩を行い、兵農分離を進めることで社会の安定を目指した。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 高句麗	聖徳太子の死後、隋に代わって中国を統一した唐は、領土拡大のために朝鮮半島北部の高句麗へ繰り返し遠征を行いました。この強大な帝国の出現と軍事的圧力は、当時の日本にとって大きな脅威となり、国内の結束を固めて天皇中心の強力な国家体制を整える必要性を認識させました。こうした背景から、中大兄皇子らによって大化の改新が断行されることとなりました。
問2	答え 2 中大兄皇子	唐（中国）の制度に習い、天皇を中心とする中央集権国家の確立を目指して行われた改革が大化の改新です。中大兄皇子は蘇我入鹿らを排除することで、有力豪族による政治から、天皇が直接統治する仕組みへと転換を図りました。
問3	答え 4 蘇我氏	古墳時代末期から飛鳥時代にかけて勢力を伸ばした蘇我氏は、渡来人と結びついて大陸の新しい文化や仏教を積極的に取り入れました。蘇我馬子は聖徳太子と協力し、冠位十二階や十七条の憲法の制定、遣隋使の派遣など、天皇中心の国づくりに尽力しました。
問4	答え 4 勝利した大海人皇子が天武天皇として即位し、天皇中心の強力な中央集権国家体制を築く基盤となった。	壬申の乱は672年に発生した、古代日本における最大の内乱です。天智天皇の弟である大海人皇子が、天皇の息子である大友皇子を破って勝利しました。この乱の後、大海人皇子は天武天皇として即位し、それまでの有力豪族との合議制ではなく、天皇が絶対的な権力を握る専制的な統治を確立しました。これが後の律令国家の完成へと繋がっていきます。
問5	答え 2 百済	6世紀半ば（538年または552年とされる）に、百済の聖明王から日本の欽明天皇へ仏像や経典が献上されたことが、日本への仏教公伝の始まりです。百済は当時、大陸の文化を日本に伝える重要な窓口となっていました。他の選択肢のうち、高句麗は半島北部、新羅は半島東部に位置していた国であり、渤海はのちに中国東北部で興った国です。
問6	答え 1 家柄にとらわれず才能のある人物を役人に登用する冠位十二階を定め、小野妹子を遣隋使として派遣した。	聖徳太子は国内では603年に冠位十二階を定めて氏姓制度にとらわれない人材登用を行い、翌604年には十七条の憲法を制定して役人の道徳を示しました。これら国内の改革と並行して、607年には小野妹子を遣隋使として派遣し、対外的な地位の向上を図りました。中臣鎌足や白村江の戦いは後の天智天皇（中大兄皇子）の時代であり、金印は1世紀の「漢委奴国王」のものです。
問7	答え 3 防人	唐や新羅の侵攻に備えるため、当時の政府は全国から兵士を徴用しましたが、特に九州北部の警備には「防人（さきもり）」が配置されました。彼らの多くは東国の農民から選ばれ、住み慣れた故郷を離れて厳しい任務に就きました。その苦しみや家族への思いを詠んだ歌は『万葉集』に「防人歌」として数多く収められています。
問8	答え 4 大宝律令が制定され、全国を国・郡・里に分けて役人を派遣する律令国家の体制が整った。	藤原京は、大宝律令の制定前後における日本の首都であり、律令に基づいた計画的な都市造りが行われました。出土した木簡は、租・調・庸といった税制度を通じて、中央政府の権力が地方の隅々まで及んでいたことを示す実証的な資料となっています。
問9	答え 3 大宰府の北側に水城を築き、各地の要所に朝鮮式山城を造った	白村江の戦いで大敗を喫した倭の政権は、唐・新羅の連合軍が日本列島へ攻めてくることを恐れ、急ピッチで国防を整えました。中大兄皇子（天智天皇）は、亡命してきた百済の貴族の指導のもと、対馬や北九州から瀬戸内沿岸にかけて山城（朝鮮式山城）を築かせ、さらに九州の政治拠点である大宰府を守るために大規模な土塁と堀を持つ「水城（みづき）」を建設しました。また、防人（さきもり）を配置して沿岸の警備を強化しました。
問10	答え 1 百済	663年の白村江の戦いで日本（倭）と百済の連合軍が唐・新羅の連合軍に敗北した後、日本は大陸からの報復的な侵攻を恐れて国防を強化しました。この際、日本に亡命してきた百済の人々が持つ高度な技術が、水城や大野城といった堅固な防御施設の築城に活用されました。
問11	答え 3 中国と対等な立場での外交を目指し、大陸の進んだ制度や文化を取り入れて天皇中心の国づくりに役立てるため。	聖徳太子は、当時の進んだ法制度や仏教文化を学ぶことで、日本を天皇を中心とした中央集権国家にする狙いがありました。小野妹子が持参した国書には「日出づるところの天子、書を日没するところの天子に致す…」と記されており、これまでの朝貢外交とは異なる対等な外交を求めたことが特徴です。蘇我馬子は聖徳太子と協力して政治を行っていましたが、遣隋使は私的な使節ではなく国家の事業です。
問12	答え 1 律令国家	7世紀後半から8世紀にかけて、日本は中国（唐）の高度な統治システムを取り入れ、刑罰を定めた「律」と、政治の仕組みを定めた「令」を整備しました。これにより、全国を国・郡・里といった行政区画に分け、中央から役人を派遣して土地と人民を直接支配する中央集権体制が確立されました。多胡碑はこの仕組みが地方まで浸透していたことを示す資料です。
問13	答え 3 仏教の採用に反対する勢力を退け、大陸の新しい文化や制度を取り入れて国家の近代化を図った。	蘇我馬子は蘇我稲目の息子であり、自らの娘を天皇に嫁がせるなどして天皇家の外戚として強い権力を握りました。彼は仏教を積極的に受け入れることで、大陸の高度な技術を持つ渡来人と結びつき、古い慣習に縛られない新しい国家体制を目指しました。この過程で仏教反対派の物部氏と激しく対立しました。